

令和３年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。
- 1 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(G L H S)」として、地域にねざしつつ、積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
 - 2 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
 - 3 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援
- (1)「確かな学力」３要素の育成
 - ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して授業研究を行う。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業の工夫」に対する肯定率 85%以上を維持する。(H30:85% R01:90% R02:91%)
 - イ 校内のＩＣＴ環境の整備を進め、ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。
 - ※ 教科特性に応じた「主体的で対話的な深い学び」のある授業を、授業実践を通じて教科ごとに構築する。
 - (2)学習指導要領改訂に対応した「社会に開かれた教育課程」を編成するとともに、指導と評価のあり方を研究・実践する。
 - ア 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業満足度」（畷高の授業は必要な力がつく）の肯定率 90%以上を維持する。(H30:94% R01:94% R02:95%)
 - イ 課題研究・探究活動を通じて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体的に協働しながら学ぶ力」を育成する。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）による課題研究等への肯定率を 80%以上とする。(H30:72% R01:74% R02:75%)
 - (3)生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。
 - ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。
 - イ 授業の工夫や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。
 - ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上を維持する。(H30:96% R01:96% R02:98%)
 - ※ 第一志望現役合格率 50%以上をめざす。(H30: 58% R01:53% R02:54%) 京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計 60 名。(H30:70 名 R01:80 名 R02:72 名)
- 2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成
- (1)グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。
 - ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。
 - ※ 部活動の加入率 90%以上を維持する。(H30:96% R01:96% R02:98%)
 - ※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる (H30: 5 部 13 種目 R01:14 部 19 種目 R02: 6 部 8 種目) が近畿大会以上に出場)
 - イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、社会貢献や人権に対する意識の向上を図る。
 - ※ 生徒学校教育自己診断における「挨拶をよくしている」の肯定率 90%以上。(H30:91% R01:89% R02:90%)
 - (2)社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。
 - ア 英語スピーチ大会（如月杯）、2年生の課題研究成果発表会（2回）などの取組みを通じて、コミュニケーション能力、主体的に協働しながら課題に取り組む力や表現力の向上を図る。
 - ※ 校外での各種コンクール等への応募数及び入賞数毎年 10 名以上をめざす。(H30: 9 件 20 名 R01: 8 件 33 名 R02: 3 件 8 名)
 - (3)国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。
 - ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。
 - イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、4 技能統合型の授業や講習の充実を図り、実用英語力の向上を図る。
 - ※ C E F RでのB1 以上の到達率 250 名以上、B2 以上 120 名以上をめざす。(H30 B1:133 名 B2: 4 名 R01 B1:281 名 B2:132 名 R02: B1:248 名 B2 91 名)
- 3 学校力・教員力の向上
- (1)機動力のある組織体制づくり
 - ア 進行中の教育改革にも迅速かつ柔軟に対応できるよう、ミドルアップダウン型の運営体制により組織内の共通認識と機動力を高める。
 - イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制と業務内容について見直しと効果検証を継続的に行う。
 - ウ 働き方改革の実行により、仕事の負担による健康リスクの減少を図る。
 - (2)研修等による教員力の向上
 - ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。
 - イ 初任者研修や 10 年経験者研修等を活用し、O J Tを通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。
 - (3)広報活動の充実による教育力の向上
 - ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー（求める生徒像）を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。
 - ※ 学校説明会への参加者総数（年間）2,000 名以上を維持する。(H30:2,505 名 R01:2,550 名 R02:1052 名)
 - (4)安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。
 - ア 個人情報 の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。
 - イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。
 - ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制、感染症対策の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。
 - エ 障がい等何らかの事情のある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、支援検討会議を通じて合理的配慮と必要な支援を行う。
 - (5)地元に信頼される学校づくりを推進する。
 - ア 四條畷市等と連携を進め、地域と協働した取組みや小中学校との交流などを積極的に行なう。
 - イ 部活動や学校行事、課題研究の成果発表など本校の教育活動を通じて、地域貢献に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和３年12 月実施分〕					学校運営協議会からの意見				
問内容		肯定率〔%〕			【第1回】令和2年6月30日（水） ○学校運営協議会委員出席者5名 (1)保護者からの意見書：なし (2)令和2年度学校経営計画及び学校評価」、「令和3年度学校経営計画及び学校評価」に関して校長より説明 ・今春の入試実績、学校教育自己診断の結果、授業アンケートの分析等。（委員より） ・コロナ禍の中で行事等よく頑張っている。 ・教科横断的な授業見学の活性化を図ってほしい。 ・教職員の働き方改革を進める必要がある。 ・人権教育・教育相談を充実させてほしい。 (3)進路状況・進路指導計画について ・進路指導計画『なわて』の説明（委員より） ・『なわて』にはストーリーがあって素晴らしい。今何をしなければいけないかわかる。 ・大学の研究室訪問では文系の研究室訪問も大切である。 ・個々の生徒に対する進路指導も大切にしてほしい。 (4)今年度のGL部の活動について ・北河内サイエンスディなど新たな取り組みの説明。（委員より） ・GL部の取り組みは、SSH指定校でもあり、GLHSでもあるので負担が多く大変だが、頑張してほしい。 ・オンラインでの国際交流は良い。コロナ禍の中、継続してほしい。 【第2回】令和3年11月9日(火) ○学校運営協議会委員出席者5名 (1)保護者からの意見書：なし (2)委員による授業見学。 (3)「令和3年度 取り組みの進捗状況について」 (4)令和4年度使用教科書一覧について ・コロナ禍での教育活動や学校経営計画の進捗状況などを校長より説明。（委員より） ・授業力向上委員会の「学ログ」が興味深い。有効活用してほしい。 ・1人1台端末を有効に活用してほしい。欠席者に対するオンライン授業等、ICTのさらなる活用を期待する。 ・第1回授業アンケートの結果はとても高いが、来年度に向けて新観点別評価に関しても進めてほしい。 ・個に応じた進路指導を大切にしてほしい。 ・探究活動は忙しいが、頑張れば達成感も大きい。 ・業務のスクラップ&ビルトを行い、働き方改革を進めてほしい。 【第3回】令和4年2月21日（月） ○学校運営協議会委員出席者6名 ・今年度の教育活動や令和3年度学校経営計画及び評価（案）、令和4年度学校経営計画及び評価（案）を校長より説明 (1)保護者からの意見書：なし (2)「今年度の本校の教育活動」について（委員より） ・コロナ禍の中、修学旅行などの行事等をしっかり実施しているのが良い。 ・生徒が楽しそうに充実した学校生活を送っている。 (3)「令和3年度学校経営計画及び評価（案）」について（委員より） ・授業アンケートの全校平均3.51はとても高い数値である。 ・学校教育自己診断のほとんどの項目で肯定率が上昇している。 ・探究活動に関する教職員の意識改革が進み、肯定率が上昇している。 ・1人1台端末の活用について、教員同士の研修を充実させると良い。 ・進路指導計画「なわて」の活用状況を教えてほしい。 ・「働き方改革」を進める必要がある。 (4)「令和4年度学校経営計画及び評価（案）」について（委員より） ・1人1台端末の活用をさらに進めてほしい。 ・進路指導計画「なわて」の活用がさらに進めば、素晴らしいものになる。 ・教職員に積極的な年休取得を促し、「働き方改革」を進めてほしい。 ・令和4年度の中期的目標「国公立大学の合格者合計200名以上」に関しては、				
		生徒	保護者	教員					
(1)	学校の満足度。（保護者:生徒が生き生きしている。）	92.3	97.3	－					
	畷高は楽しい。	93.0	86.1	－					
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	93.0	－	－					
	興味を感じる授業が多い。	83.5	－	－					
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	－	－	84.0					
	授業におけるICT機器の活用。	－	－	97.0					
(3)	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	－	－	88.0					
	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	84.3	－	82.0					
	学校生活についての先生の指導は納得できる。（教員:理解を得ている）	89.5	95.2	93.0					
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	95.9	94.0	86.0					
	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	89.0	93.4	－					
(4)	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。（教員:体制が整っている）	95.7	92.7	86.0					
	畷高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	94.6	93.1	－					
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	96.0	95.5	96.0					
(5)	本校の探究活動の取組みに満足。	76.0	92.7	93.0					
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	80.2	76.5	79.0					
(6)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	95.7	95.3	77.0					
	人権を尊重した指導への取組み。（教員:十分に話し合われている）	－	93.6	57.0					
(1) 生徒の肯定率はほとんどの項目で上昇し、保護者の肯定率は一部の項目で微減した。生徒の学校生活の満足度、保護者の評価はともに高い。									
(2) 生徒の授業満足度は上昇した。教員のペアワークやグループワーク実施率は6％、教員のICTを活用した授業実施率は14%、授業アンケートの活用は10%上昇した。これは、今年度新設した授業力向上委員会による「学ログ（校内の授業検索システム）」の作成、1人1台端末の活用や新観点別評価に関する教職員研修の実施など、授業力向上に向けた積極的な働きかけの成果である。今後も、授業力向上委員会が中心となり、「生徒の学力伸長や興味関心を高める授業」をめざして、さらに授業見学や研究授業を活性化していく必要がある。									
(3) 生徒指導や進路指導、教育相談に関しては、生徒、保護者ともに評価が高い。「担任以外にも悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」という項目の肯定率が、生徒は約7％、教職員は4％上昇するなど、教育相談に関しては評価が大きく上昇した。また、「将来の進路や生き方について考える機会がある」という項目の肯定率は生徒、保護者、教職員ともに上昇した。これは、今年度、進路指導部が3年間の進路指導計画『なわて』を作成し、計画的に講演や研究室訪問などを実施してきた成果である。今後も教育相談体制や進路指導の充実努めていく必要がある。									
(4) コロナ禍で制約が多かったが、今年度も畷高祭や体育祭、球技大会などの学校行事を工夫して行うことができた。また、部活動も緊急事態宣言下で原則休止となる期間も長かったが、部活動加入率は昨年度とほぼ同水準を維持した。その結果、行事や部活動に関する肯定率は生徒、保護者、教員いずれも90%以上と高く、今後も維持していく必要がある。									
(5) 課題研究への取り組みは、コロナ禍で制約が多かったにもかかわらず、生徒、保護者、教職員ともに肯定率が上昇した。特に教職員の肯定率は13%上昇している。これは、GL部が中心となって全校体制を構築してきた努力の成果である。国際交流はコロナ禍で海外研修がすべて中止となったが、台湾やオーストラリアとの交流をオンラインで積極的に実施した。その結果、生徒の肯定率の減少幅は小さく、教職員の肯定率は上昇した。									
(6) プライバシー保護や人権尊重への取組みについての生徒や保護者の評価は高い。人権教育に関する教職員の肯定率は12%上昇したが、まだまだ低く、人権教育を充実していく必要がある。									

府立四條畷高等学校

	私立大学をめざしている生徒もいるので、令和3年度の中期的目標「第一志望現役合格率 50%以上をめざす」の方が良い。
--	---

府立四條畷高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（R 2 年度値）	自己評価
1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援	（１）「確かな学力」３要素の育成 ア より高い授業力を求めた授業研究 イ ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくり	（１） ア・授業力向上委員会が中心となって研究授業・授業公開を企画し、授業改善を進め、生徒の意欲関心を高める。 イ・ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。	（１） ア・研究授業等の実施 10 回以上（12 回） ・授業アンケート全校平均 3.4 以上の維持（3.41） ・学校教育自己診断（生徒）での「興味を感じる授業」の肯定率 75%以上維持する。（82%） イ・ＩＣＴ機器の活用率 75%以上（83%）	（１） ・授業力向上委員会が中心となって、「学ログ」の新設や 1 人 1 台端末の教職員研修などを行った成果が出ている。来年度も教員の授業力向上に取り組んでいきたい。 ア・研究授業等の実施 11 回（○） ・授業アンケート全校平均 3.51 に上昇（◎） ・学校教育自己診断（生徒）「興味を感じる授業」の肯定率は 84%に上昇（◎） イ・ＩＣＴ機器の活用率は 97%と大幅に上昇（◎）
	（２）学習指導要領改訂に対応した指導と評価 ア「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ 課題研究等による確かな学力の育成	（２） ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ・３年間を５期に分け、それぞれの目標を定め、全生徒を対象にして計画的に課題研究を行う。	（２） ア・アクティブラーニング（ＡＬ）の実施率 75%以上（78%） イ・学校教育自己診断（生徒）による課題研究の肯定率 75%以上（75%）	（２） ・新観点別評価による指導と評価の一体化をさらに進めていく必要がある。 ア・アクティブラーニング（ＡＬ）の実施率は 84%に上昇（◎） イ・学校教育自己診断（生徒）「探究活動」に関する肯定率は 78%に上昇（◎）
2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成	（１）グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成 イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導の徹底及び社会貢献や人権に対する意識の向上	（１） ア・文化祭等行事や部活動のさらなる充実。 イ・全教員で登校時の生徒指導を行う。 ・地域清掃などの奉仕活動を継続的に行う。 ・人権意識向上に取り組み、とりわけ SNS での人権侵害については、教員研修の充実を図り一層の指導を行う。	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）による「畷高祭の工夫」に関する肯定率 90%以上の維持（94%） ・部活動の加入率 90%以上（98%） イ・年間遅刻者数 1000 以下（902 件） ・学校教育自己診断（生徒）による「挨拶をよくする」の肯定率 85%以上（90%） ・学校教育自己診断（教員）による人権を尊重した指導への自己肯定率 60%以上（45%）	（１） ・コロナ禍により畷高祭、体育祭、球技大会は延期となったが、内容を工夫して実施できたことや活発な部活が高い評価となっている。「挨拶の大切さ」を指導していく必要がある。 ア・学校教育自己診断（生徒）「畷高祭の工夫」に関する肯定率は 95%に上昇（◎） ・部活動の加入率 97%に微減（○） イ・年間遅刻者数 1259 件に増加（△） ・学校教育自己診断（生徒）「挨拶をよくする」の肯定率は昨年度に比べると 85%に減少したが、目標は達成（○） ・学校教育自己診断（教員）「人権を尊重した指導」の肯定率は 57%と昨年度と比べると大幅に上昇したが、目標には届かなかった（△）
	（２）コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組みを通じて、能力の育成を図る	（２） ア・英語スピーチ大会（如月杯）、課題研究発表会（２回）などを系統的に実施し、発表力の向上を図る。	（２） ア・学校教育自己診断（生徒）による「発表活動のチャンスが多い」の肯定率 85%以上（90%） ・校外のコンテスト等での入賞 10 件以上（３件）	（２） ・コロナ禍で外部のコンテストが減少したが、校内ではデジタルポスターなど発表形式を工夫して、発表の機会を確保した。来年度以降もアウトプットの機会を確保していく必要がある。 ア・コロナ禍で発表機会が減る中、学校教育自己診断（生徒）「発表活動のチャンスが多い」の肯定率は、89%に微減したが、目標には達した（○） ・コロナ禍で発表機会が減る中で、校外のコンテスト等での入賞は 9 件に増加した（○）
	（３）国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成 イ ４技能統合型の授業や講習等による実用英語力の向上	（３） ア・台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して課題研究の質を向上させる。 イ・国際交流キャンプ、４技能統合型の英語授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。	（３） ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施 5 本以上（５本） イ・ＣＥＦＲの B1 レベル 250 名、B2 レベル 100 名（B1 248 名、B2 91 名）	（３） ・コロナ禍で海外研修は中止となったが、台湾とのペンパルプロジェクトやオーストラリアとのカード交換など、オンラインを活用しての国際交流を活発に行った。来年度以降も継続していきたい。 ア・コロナ禍で国際交流ができない中、オンラインを使って、海外とのを活用した課題研究等を 4 本実施した（○） イ・ＣＥＦＲの B1 レベル 135 名、B2 レベル 22 名（指標を英検から G T E C に変更したため減少）

府立四條畷高等学校

3 学 校 力 ・ 教 員 力 の 向 上	（１）機動力のある組織体制 ア ミドルアップダウン型の運営体制づくり イ グローバルリーダー育成のための組織と業務の見直し及び検証 ウ 働き方改革の実行による仕事の負担リスク減少	（１） ア・経営企画会議、将来構想検討委員会を通じて課題認識の共有を図り、教職員研修を通じて課題解決に向けてのコンセンサスを作る。 イ・G L部を中心に全校体制で課題研究の指導に取り組み、課題研究を核としたG L教育を充実させる。 ウ・全校一斉退庁日の有効実施。 ・教職員間の情報共有に努め、風通しの良い職場環境を作る。	（１） ア・経営企画会議の定例開催（毎週） ・学校教育自己診断（教員）での「教育活動全般の評価と検証」の肯定率を70%以上（57%） イ・学校教育自己診断（教員）での「課題研究活動の取組み」の肯定率を80%以上（78%） ウ・全校一斉退庁日における残留者の減少（月ごと前年度比較） ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスク90以下の維持(88)	（１） ・SSH第Ⅱ期4年めを迎え、探究活動の全校体制は一層進展した。来年度は各種会議の連携と働き方改革を一層進めていく必要がある。 ア・経営企画会議の定例開催（○） ・学校教育自己診断（教員）「教育活動全般の評価と検証」の肯定率は71%と大幅に上昇（○） イ・学校教育自己診断（教員）「探究活動の取組み」の肯定率は93%と大幅に上昇（◎） ウ・全校一斉退庁日における残留者は増加（△） ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスクは大幅に減少77(◎)
	（２）研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施 イ 法定研修を活用したO J Tによる教員力の向上	（２） ア・初任者ミーティング等、校内研修の中期計画による実施 イ・メンター制度によりO J Tで初任者、2年め、10年め教員の相互育成を図る。	（２） ア・初任者ミーティング等、研修の効果測定を行い、肯定率を90%以上とする。（96%） イ・メンター制度の満足度を90%以上とする。（100%）	（２） ・初任者ミーティング12回、1人1台端末研修4回、新観点別研修2回、スキルアップ研修及び分析検討会6回、人権教育研修、救急講習などで研修回数は大幅に増加した。次年度以降も研修等による教員力の向上を図っていきたい。 ア・初任者ミーティング等の肯定率96%を維持（◎） イ・メンター制度の満足度100%を維持（◎）
	（３）広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信	（３） ア・校内・外での学校説明会などで積極的に本校の特色とアドミッションポリシーを発信する。	（３） ア・学校説明会への参加者数2,000名以上の維持（1052名）	（３） ・コロナ禍で中学生による畷高祭見学がなくなるなど、学校説明会は昨年度と同じく2回しか実施できなかったが、そのなかで定員を増やすなどして対応した。 ア・学校説明会への参加者数は昨年度よりも増加し1276名（一）
	（４）安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備 イ 障がい等による支援や指導を要する生徒への適切な対応 ウ 災害や事故等発生時の体制整備、感染症対策の徹底	（４） ア・個人情報の適正な管理と事故対応について周知徹底を図る。 イ・障がい等支援が必要な生徒には支援検討会議が中心となって合理的配慮に基づく支援を行う。 ・不登校など配慮の必要な生徒等に対する初期対応を手厚くするとともに、S Cとの連携を図り、支援検討会議を通じて必要な支援を行う。 ウ・防犯・防災計画、大規模災害時初期対応マニュアル等の内容を周知徹底する。 ・新型コロナウイルス等感染症対策の徹底を図る。	（４） ア・学校教育自己診断（教員）における教職員の「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率70%以上（78%） イ・学校教育自己診断（教員）における「支援や配慮」に関する肯定率70%以上（67%） ウ・防犯・防災計画や新型コロナウイルス等感染症対策の情報共有の徹底	（４） ・支援検討会議による不登校生徒等への支援や配慮など、教育相談体制が充実した。来年度以降も教育相談に一層力を入れていく必要がある。 ア・学校教育自己診断（教員）「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率は77%を維持（◎） イ・学校教育自己診断（教員）「支援や配慮」に関する肯定率は大幅に上昇して79%（◎） ウ・防犯・防災計画や新型コロナウイルス等感染症対策の情報共有の徹底ができた。
	（５）地元信頼される学校づくり ア 四條畷市等との連携 イ 部活動や学校行事、課題研究の成果発表などを通じた地域貢献	（５） ア・小中学校への出前授業やオープンラボ等、四條畷市等と交流した取組みを行う。 イ・地域学「なわて学」などを通じて、地域住民に向けた部活動の取組みや課題研究の成果発表などを行う。	（５） ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みの増加（3種類） イ・地域住民等に向けた取組みの増加（4種類）	（５） ・コロナ禍で、企画していた小学生サッカー教室が延期となったが、北河内サイエンスデイを行うなど、新規の取組みを実施した。今後も地域連携を一層進めていく必要がある。 ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みは4種類と微増（○） イ・地域住民等に向けた取組みは4種類を維持（○）